

●番号案内掲示板の起動時に「WindowsによってPCが保護されました」と表示される件について
同様に、添付のSilentPlayerKKTも同様のことが起こることについて

このような事が起こることを知ってはいましたが、本ソフトでも起きていた事を最近になって認識しました。
というのもプログラム作成の過程でVisual Studio でビルドし実行してもこのような事は起こりませんでした。
また、Vectorから検証のためダウンロードしたzipファイルを日頃から使っているLhaForgeで解凍して実行した際も、このような事は起こっていなかったためです。
そこで調べてみたところ、以下の理由だと知りました。

ダウンロードしたアプリやファイルを使用する際に、「WindowsによってPCが保護されました」と表示されることがあります。

これは、パソコンに**危害を及ぼす可能性がある場合に、パソコンを保護するために表示される画面です。**
安全なアプリやファイルでも、発行元が不明な場合や、ダウンロードされた実績が少ない場合に表示されることがあります。（NEC LAVIE公式サイトQ&Aより引用）

また、「アプリやファイルの**安全性が確認できる場合**に「実行」をクリックします。」との記載もあります。

私は悪意のあるプログラムを作っていないし、簡易なものですがアップロード前にWindows defenderでウイルスチェックを行っています。

Vectorが行うチェックについても『Vector』のウイルスチェック体制”として公開されております。

ただ私は**悪意のないソフト**であることの**証拠を提示することができません。**

またウイルスやマルウェアに関わらず、**本ソフトの使用により間接的に起こることを含め危害**を生じる可能性について**“決していない”とも言いきれません。**

”使用は**不適切**”と判断された場合は警告画面の「**実行しない**」ボタンを選択し、**削除**してください。

そうでない場合は、以下の手順を参考としてご覧になってみてください。

zipファイルの解凍方法によって警告の有無に違いがあったので参考として記します。（原因は不明）

【参考1】 Windowsの操作の右クリックからKenKenTyuPLUS260??.zipファイルを解凍した場合 ※1

※1 以下は、あくまでも私の場合の一例であって全ての場合で同様になるとは限りません。

zipファイルを右クリックし”すべて展開”から解凍した後にKenKenTyuPLUS260??.exeを実行すると図1の警告がでました。（その前にスキャンが必要だと表示される場合があるかもしれません。）

図1の赤矢印部分”詳細情報”をクリックすると図2の警告に変わり、アプリの名称と発行元が表示されます。自作ソフトのほとんどは不明な発行元だと思います。
この情報で安全性が確認できるはずもありますが、それを理解したうえで実行する場合は図2の実行ボタンを押します。
これで本ソフトが起動します。

図1

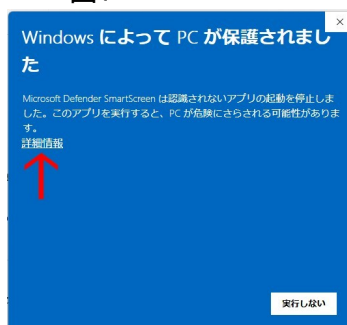
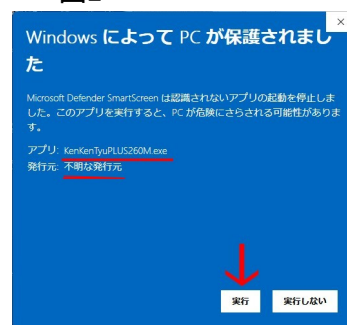


図2

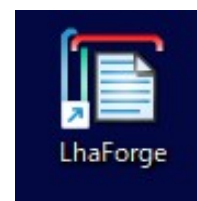


・SilentPlayerKKTフォルダ内のSilentPlayerKKT26.exeを実行した場合も警告が出る場合がありますが同様に上記の操作を行えば起動します。

【参考2】 解凍ソフトLhaForge Ver.1.6.7で解凍した場合 ※1

※1 以下は、あくまでも私の場合の一例であって、全ての場合で結果が同様になるとは限りません。

私は普段 zipファイルを解凍するのにLhaForge Ver.1.6.7を使っています。
Vectorから検証のためダウンロードした本ソフトのzipファイルもこのソフトを使っていました。LhaForge を使った場合、なぜか図1のような警告画面は出ませんでしたし、正常に起動していました。（他の解凍ソフトを使った場合についてはわかりません。）



LhaForgeを使って解凍しても図1の警告が出た場合の対処は前述の＜参考1＞と同様です。

●ウイルスと判定されることへの対応

Microsoft Defenderが何を基準にウイルス判定しているかは公開されておらず不明なようです。そこでAIアプリに聞いてみました。自作ソフトではWebView2やMedia Player他を使用していることを入力し聞いたところ回答は以下の通りでした。

C#でWebView2やMedia Player(WMPLib)を使用すると、**「振る舞い検知」**によって誤検知されやすくなります。
理由は主に2点です。

- ・動的な挙動: 外部ライブラリのロードやネットワーク通信を伴うため、マルウェアの動作と類似して見える。
- ・署名の欠如: 実行ファイルにデジタル署名がない場合、セキュリティソフトの警戒レベルが上がります。
- ・対策: exeファイルをデジタル署名するか、セキュリティソフトのホワイトリストに登録するのが一般的な対策です。

WebView2やMedia Playerは必要であり、上記の対策を行うことは難しいとが分かりました。フリーソフトの「デジタル署名」に数万円のコストをかけるのは難しいし、ホワイトリストに登録することはユーザーがフリーソフトを全面的に信頼することで、これも難しく思えます。

以上により、可能な範囲で対策を行いました。次の通りです。

- ・モニターの常時電源ONとスリープへの移行抑制をプログラムから行っていました但中止しました。
- ・SilentPlayerKKTを完全な外部ソフトにして、番号案内掲示板ソフト内部から起動しないようにしました。
- ・SilentPlayerKKTのプログラムからOSのスリープの検知とOS復帰後の再生試行を削除しました。
- ・スライドショーのscrTyu015の使用を中止にし、同封も中止しました。
- ・WebView2ランタイムのインストールの有無をチェックする自作ソフトWebView2_Runtime_Checker.exeの同封を中止しました。

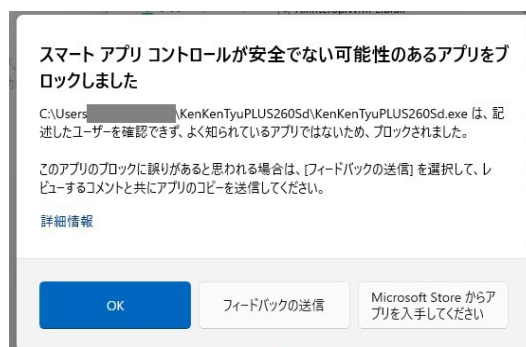
このことで少しでも改善することを望みます。

●追記（スマート アプリ コントロールでブロックされました）

Windows11（バージョン22H2）から搭載された新しいセキュリティ機能のスマート アプリ コントロールでブロックされました。

スマート アプリ コントロールにはホワイトリストなどの機能もないため一度こうなるとWindowsセキュリティでスマート アプリコントロールの設定をオフにしないかぎり改善しません。

【注意】一度オフにするとオンに戻せなくなるという情報があり、戻すにはWindowsの再インストールが必要です。（AIアプリ回答）
私の場合は問題なく変更可能でした？！



安全でない理由は「よく知られているアプリではないため」とあります。（右図）

ブロック回避のためには証明書を数万円で購入してデジタル署名するか、Microsoft storeで公開することが必要なようです。自作ソフトを公開するのが本当に難しい状況になってしまいました。

スマート アプリコントロールをオフにすればロックを回避できますがセキュリティは確実に弱くなり、マルウェア侵入のハードルが下がってしまいます。
つまりオフでの運用は難いため**ブロックが生じた場合は使用を中止し削除してください。**